吹奏太郎 第７号

1997. 12. 31
発行　栃木県吹奏楽連盟広報部
発行責任者　手塚　豊

全日本コンクール特集号

栃吹連四方山話　第７回

「アメリカマーチングバンド見聞記」

副理事長　福井 史志

聞きしに勝るアメリカのマーチングバンド。層の厚さと社会的認知度・市民生活や学校生活への密着度、サービス精神の旺盛さ。さすが日本の比ではないというのが実感である。私が見てきたいくつかの場面から拾ってその様子を紹介したい。

そもそもアメリカのマーチングバンドはアメリカンフットボールのハーフタイムでのアトラクションとして発展した。公式試合は野球がオフになった冬に行われる。このシーズンは凍りつくような寒さに見舞われる。私が滞在していたシンシナティには「レッズ」というプロチームの本拠地があり、その熱狂的応援観戦ぶりは、さすが本場でのアメフトである。シンシナティの会場はその名も「リバーフロントスタジアム」と呼ばれるだけあって、やがてミシシッピー河となる上流の「オハイオ河」に面して建っているので特に寒い。私が観戦したときは零下１２度を越えていた。話には聞いていたので耳かけと帽子を買い、服は幾重にも重ね着しての完全防備で出かけた。しかし上には上がいてこれくらいは当たり前、布団や毛布まで背負ってきているのには驚いた。スタジアムが大観衆の異様な声援でこだまする中、やがてハーフタイム。すかさず地元大学によるマーチングバンドが始まった。総勢１５０～１７０名。コート全体に繰り広げられる音と演技は壮観である。観客も又これを楽しみにしていることがよくわかる。しかし出演者からは全く寒さを感じさせない。観客の声援が飛ぶ。整然と退場が終わると同時に後半戦が始まった。全く隙間がない。見事に一体化しているのである。マーチングが主で観戦にきているものもいるらしい。夜ハイスクールのフットボールを観にいったときも同じだった。違いは双方のチームのバンドが交替で出場し、試合中も応援していたことである。紙面の関係でここまで。

隣のインディアナ州インディアナポリスでは世界一の自動車レース「インディ５００」が有名である。この観戦にも出かけた。爆音すさまじく、目の前を通るときは早くて横に大きく書かれた数字すら読めない。わずかに車体の色がわかる程度である。この開始前、このコースはマーチングバンドのパレードで埋まる。次から次へと繰り出してくるのでとても数えることすらできなかった。ミドルスクール（中学校）がいくつか。エレメンタリ（小学校）はない。後は高校か大学、一般もあるらしい。何しろ４０万とも５０万とも言われる大観客である。早くから入場して待つ世界からのお客さんを飽きさせない。今年はこのレースを衛星中継で観戦した。あいにく今年は過去のレースでも一度しかないという雨にたたられた。その間ひたすら待つ観客。ここでバンドの登場である。観客へのサービスが始まった。降り続く雨の中で演奏が行われている。お読みになっている方で今年５月テレビでこの光景を目にした人もいるはずである。もちろん屋根など雨を防ぐ手だてはない。しかも金管・打楽器だけではない。木管楽器も入ってのフル出演である。この旺盛なサービス精神は日本のバンドには全く見られないと言っては過言だろうか。楽器をかばうあまりに真っ先に待避するバンドは何回も見たことはあるが。彼らは自分たちが観客に対してできる役割をよく理解している。バンド人としての誇りと、まさに役割を意識という点ではプロという言葉が当てはまるのではないか。観客もそれを期待している。

ここで与えられた行数が終わってしまった。いつか再び機会が与えられれば、マーチングのコンテストやパレード、スクールバンド等についても触れたい、と半分だだこねて終。

全日本吹奏楽コンクール
本県勢の活躍に心から拍手

理事長　手塚　豊

多くの先生方が，研修「全日本コンクールの響きに接する」に参加下さり，有り難いことと思っております。

このことは，先生方の指導の資質の向上に役立つばかりでなく，そこで貯えられた先生方の吹奏楽の音楽として理解の深化が，直接指導を受ける，児童・生徒・団員の音楽性の陶冶に計り知れない価値をもって注がれるからに他なりません。先生方のこの尊い探求心こそ，明日を担う若者達へ何よりの賜物であって，栃吹連の目指す「吹奏楽の質的向上」の基盤であると思います。

本県から東関東を代表して全日本に出場された４つの団体（五代小，喜連川小，陽西中，宇都宮北高）のすばらしい演奏に対して，心から祝辞と感謝を申し上げます。

マーチングにつきましては，今年度から小学校部門がステージ演奏とマーチングが同一会場ということで従来と変わったのですが，会場の条件から見て，五代小には申し訳ない感じでいっぱいでした。やはり，コンサートは，きちんとしたホールでないと，美しい音楽が美しく迫って来ないうらみがある。宇都宮北高の思想性をもった構成と，喜連川小のアレンジ曲のもつ深みのある表情は，身内の感情を差し引いてもすばらしいものでした。

活躍の記録

○ 第45回 全日本吹奏楽コンクール　中学校部門
平成９年10月19日（日）東京普門館
銀　賞　宇都宮市立陽西中学校　指揮　星　弘敏
・課題曲　「５月の風」　真島俊夫　作曲
・自由曲　「サロメ」　R・シュトラウス　作曲

○ 第10回 全日本マーチングフェスティバル
平成９年11月22日（土），23日（日）神戸市ポートアイランドホール
マーチングの部
最優秀賞（グッドサウンド賞）　喜連川町立喜連川小学校
「わが祖国よりモルダワ」
指導－松本　享子，津浦　景子
仁平　智子
最優秀賞（グッドサウンド賞）　宇都宮北高等学校
序曲「ピータールー」
指導－岩原　篤男

コンサートの部
優秀賞　宇都宮市立五代小学校　指揮　菊池久美子
「ブラスバンドのためのパルティータ」　エドワード・グレッグソン　作曲

喜びの声

全日本大会に東関東代表として出場されたみなさんの喜びの声をお届けいたします。

全日本マーチングフェスティバルに参加して

喜連川町立喜連川小学校
吹奏楽部顧問　松本　享子

喜連川町はとても緑のきれいな，そして水の豊かなことが自慢です。しかし，もっと自慢できることがあります。それは，明るく，やる気いっぱいの吹奏楽部の子供たちです。

部長を中心に，「やる気があれば何でもできる。」をモットーに，夢の全国大会を目指してがんばりました。練習時間近くになると，それぞれが自主的に準備運動を始め，練習時間の開始には練習を始め，わからないところがあると何度も繰り返して練習する徹底ぶりで，われわれが先に根をあげるほどでした。そんな中での全国大会出場は，何にも代えがたい子供たちへのご褒美となりました。

『 全国大会に出場して

喜連川町立喜連川小学校
６年　瀬尾　梓

私は６年生で，大会はもう最後。いつもいつも「全国に行きたい。」と思いながら練習していました。今思えば，あっという間のできごとのようです。でも，全国大会の時のこ

とは，とてもはっきり覚えています。本番前，夏のことを思い出して，胸がいっぱいになりましたが，せいいっぱい思いきり演技しました。小学校最後に，みんなと一緒に全国大会に行くことができてよかったです。また，よく頑張ったと思います。』

われわれ指導陣は，この言葉を聞くのが楽しみで，来年もまた「どんな曲にしようか，構成は。」などと，心をはずませているところです。

小学校バンドフェティバルに参加して

宇都宮市立五代小学校
金管合奏クラブ顧問　菊池久美子

五代小自体としては，９年ぶり４回目の全国大会参加でした。音楽室の廊下に飾られた，第１回・第４回・第７回大会のパネルを眺めるたび，ため息をついていた部員たち。半ば伝説と化していたことが，また自分たちの手に戻った喜びは，筆舌につきぬものです。

今年度は，２０名弱からのスタート。まず，バンドを編成して，曲を演奏して，舞台に出るということさえも夢の状態でした。県大会での金賞はもちろんのこと，全国への推薦など，夢のまた夢，それこそ宝くじものだったのです。実際，コンクールの審査発表でも喜びの声どころか，“鳩が豆鉄砲”の表情でした。あの瞬間は，今でのはっきり覚えています。

喜びもつかの間，いざとなると，過去３回の時にくらべ，部員は少ないし小さいし，楽器も古くて穴が空くし，場所は遠いし，体育館だし……。頭の痛い問題が山積みでした。それでも，一生懸命演奏する子供たちの姿に，大人たちが力づけられました。こんな素晴らしい子供たちに出会えた喜びは，一生忘れないでしょう。

一つ残念だったのは，参加校の減少や予算の都合やら，真偽のほどは分かりませんが，今回１６回目を数えるはずの全日本バンドフェスティバルが，第１０回マーチングフェスティバルに吸収合併されてしまったことです。この合併が，よりよい音楽教育に結びつくこととを，心から，祈念いたします。

全日本マーチングフェスティバルに参加して

宇都宮北高等学校
吹奏楽部顧問　岩原　篤男

全国大会の神戸は，非常に遠かった。でも，終わってみるとすごく充実していました。

今年度，５月の第１１回定期演奏会のために選曲した曲をマーチングにアレンジが始まったのは，実際には定期演奏会が終わった後からでした。マーチングについては，毎年，その年の新入部員の１年生と高校Ａ部門に出場しない２年生を中心に今年度のメンバーが決まります。構想は，思索案はできていたものの，Ａ部門のアレンジと平行しながらは非常に苦労しました。また，著作権の問題などいろいろありました。全曲でき上がったのは，月の県大会Ａ部門終了後で，２週間で何とかまとめ上げられたのが不思議でなりません。生徒達の努力の結晶の賜物で，私自身感服しています。それからはというと，手直しの繰り返しで，東関東，そして全国と進めました。作品としては，素材が生徒達に理解しやすい物であったのが一番良かったのだと思っています。ここで，生徒の感想を紹介させていただいきます。また，これまで支えて下さった皆様に心から感謝しております。この場を借りてお礼申し上げますとともに，今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

『　全国大会という大きな舞台で演奏できたことの感想を一言で表現しますと，〈自分達でも感動できた最高の演奏ができた。〉ということになると思います。最高の演奏とは，技術の面ももちろん大切ですが，それ以上に自分達が〈Ｐｅｔｅｒｌｏｏ〉という曲をどう表現しようかということを考え，演奏することだと思います。そのことが本番当日に，みんなの心が一つとなって，表現できた結果として感動できたり充実感を味わえたりしたのだと思います。　部長（２年）廻谷　利彦』

県吹奏楽アンサンブルコンテスト終わる

第29回県吹奏楽アンサンブルコンクールが，12月21日（日），23日（火）の２日間にわたり，真岡市民会館において開催されました。結果は以下のとおりです。

（順不同，影付文字は県代表）

○ 小学校の部

金賞　宇都宮市立明和小　金管七重奏　　宇都宮市立五代小　金管八重奏　（2団体）　作新学院小学部　金管八重奏

銀賞　今市市立今市第三小　打六重奏　　真岡市立真岡東小　金管打八重奏

○ 中学校の部

金賞　宇都宮市立陽南中　打六重奏
〃　sax四重奏
宇都宮市立姿川原中　sax四重奏
〃　trb三重奏
宇都宮市立宮の原中　cl四重奏
〃　sax四重奏
今市市立今市中　fl三重奏
〃　パリ・チューバ四重奏
芳賀町立芳賀中　打五重奏
〃　木管五重奏
宇都宮市立豊郷中　cl四重奏
宇都宮市立睦南中　cl四重奏
〃　trb四重奏

銀賞　真岡市立真岡東中　fl三重奏
〃　パリ・チューバ三重奏
小山市立小山城南中　cl三重奏
〃　sax四重奏
宇都宮市立 清原中　金管八重奏
宇都宮市立星が丘中　cl四重奏
〃　金打六重奏
喜連川町立喜連川中　cl五重奏
宇都宮市立豊郷中　sax四重奏
今市市立大沢中　金管六重奏
藤岡町立藤岡一中　木管四重奏
〃　trb三重奏
宇都宮市立城山中　木管五重奏
宇都宮市立 若草中　木管八重奏
足利市立西中　金管七重奏
茂木町立茂木中　fl四重奏
〃　木管五重奏
真岡市立真岡中　sax四重奏
宇都宮市立一条中　sax四重奏
茂木町立逆川中　Cl四重奏

○ 高校の部

金賞　宇都宮南高　打四重奏
真岡高　sax四重奏
作新学院高　金管五重奏
今市高　打五重奏
〃　金管五重奏
宇都宮北高　打七重奏
〃　金管六重奏
矢板中央高　sax四重奏
〃　金管三重奏

銀賞　黒磯高　打六重奏
〃　木管五重奏
真岡高　cl四重奏
作新学院高　木管五重奏
真岡女子高　fl三重奏
〃　cl八重奏
真岡北陵高　cl四重奏
宇都宮清陵高　金管六重奏
石橋高　sax四重奏
宇都宮工業　sax四重奏
茂木高　パリ・チューバ四重奏

○ 大学の部

金賞　國學院栃木短大　cl四重奏
〃　sax四重奏

銀賞　足利工業大学　sax六重奏
〃　金管五重奏

○ 一般の部

金賞　宇都宮FL倶楽部　Fl五重奏
今市ウインドアンサンブル　Cl六重奏
ノースウインドシンフォニー　Sax四重奏
小山市交響吹奏楽団　Trp五重奏
宇都宮トロンボーンアンサンブル　Tb4重奏

銀賞　陽西中OG・OB　Cl四重奏
ノースウインドシンフォニー　Cl六重奏

支部だより

安蘇佐野支部

部長　山本　道夫（城北小）
副支部長　武井　哲也（天明小）　興儀 和弘（葛生高）

安蘇佐野支部は，小学校，中学校，高校，一般団体より構成されていますが，特に小学校の加盟校が多いことが特徴です。主な活動としては，各種演奏会の他，児童・生徒及び指導者向けの講習会を毎年開催しています。それを通し，奏法技術や指導技術の向上の他，会員相互の親睦を深めたり良き情報交換の場としたりしていています。

これからも地域音楽文化の発展に少しでも貢献できるよう，部員一同力を合わせてより充実した活動を推進していきたいと思います。

平成９年度の活動

７月　管楽器講習会〈トロンボーン〉
（講師：首藤　健一先生）
８月　さの秀郷まつり小中学校演奏会
９月　佐野市吹奏楽祭
10月　佐野市立城北小学校ＰＴＡ
ふれあいコンサート
佐野吹奏楽団出演
（城北小学校吹奏楽部との合同演奏会）
２月　アンサンブルフェスティバル
午前：講習会〈ホルン〉
〈パーカッション〉
（講師：佐野吹奏楽団員）
午後：アンサンブル
フェスティバル

編集後記　本号は，全日本コンクール特集号として発行することができました。素晴らしい演奏を披露された，五代小，喜連川小，陽西中，宇都宮北高の皆様，大変お疲れ様でした。また，手塚理事長，福井副理事長にご寄稿いただき，充実した内容をお届けできうれしく思います。今後の指導に生かしていただければ幸いです。

いよいよ，1998年です。新しい気持ちで楽しく充実した吹奏楽活動が推進されますようご祈念申し上げ，編集後記とします。　尾花 記